仙台への支援物資輸送と激励の取り組み

矢部雄一（国労東日本本部法対部長）

「東日本大震災」対策本部は２４日から、盛岡地本、仙台地本への支援物資輸送と激励行動を取り組みました。盛岡には、本部鈴木執行委員、東日本本部松井書記長、仙台には、本部小池執行委員、東日本本部の矢部が出向きました。

朝９時５５分、本部の小池さんと本部宣伝カーに便乗して東北道を北上し、一路仙台をめざしました。２３日から一般車も交通できるようになった東北道ですが、渋滞区間もなくスムーズに通行できました。

震災の影響を感じ始めたのは、福島県内に入ってからです。東北道の所々に地

義援金を手渡す小池中執

震で崩れたりひびが割れたため、補修した後がありました。補修後も道路のゆがみは元に戻らず、宣伝カーは何度も跳ね上がりながら走っていきました。目についたのは、高速道路でもガソリンを入れるために長い列を作る自動車の群れです。福島県までは比較的短時間で給油できた

仙台地本に物資搬入（橋本仙台地本委員長）

ものの、宮城県内では大渋滞していました。しかし、一般道の給油渋滞から見れば、短時間で給油できるため、わざわざ宮城ナンバーの車が給油するために高速道を利用する姿も見受けられました。

本部宣伝カーは１６時過ぎに仙台地本に到着し、役職員の出迎えをいただきました。仙台地本五十嵐書記長から震災以降の地本の取り組みや地本内の被害状況等について詳しく話を聞き、１７時過ぎに地本橋本委員長と合流し、被災地への支援行動に出発しました。行き先は今回の津波で大きな被害を受けた石巻市の中心部です。仙台市内から約５０ｋｍの道のりの石巻まで、国道４５号線を通って向かいました。途中の利府市周辺では地震による被害は目立ちませんでしたが、東松島町から石巻市へ至る国道は、すでに自衛隊によって片付けられてはいたものの、所々に津波で流された車が横たわり、瓦礫の山が散乱していました。道路

崩れたガソリンスタンド（仙台市内）

も泥まみれの状態で、津波の傷跡を物語っていました。津波に飲み込まれた仙石線は、流されてきた車と瓦礫に包まれた状態で放置されたままになっていました。

夕闇に包まれた１８時半、石巻総合運動公園に到着しました。ここは、支援物資の集積場所になっており、消防や自衛隊の基地として使われていました。様々な自衛隊車両が駐車場いっぱいに並び、簡易施設の上ではレーダーらしきものが常時回転し、まさに軍事基地さながらの光景を目の当たりにしました。

支援物資は石巻市の職員を通じて被災者に渡されることになり、持ち込んだ支援物資を施設内へ搬入しました。市職員からは、医薬品や生理用品の支援を大変喜んでいただきました。

今回の行動では、石巻市在住で自らも被災された国労ＯＢの先輩に案内していただき、支援物資を届けることができました。ありがとうございました。また、橋本委員長、五十嵐書記長におかれては、困難な生活状況にありながらも、組合員の救済はもとより被災地への支援行動に日夜活躍されていることにあらためて敬意を表します。私たちも被災地の惨状を目の当たりにするとともに、仙台市内においても未だガスの復旧が進んでいない状況を聞くにつけ、被災地への支援を強めなければならないと痛感した次第です。今後とも、被災地の状況把握に努め、関係地本と連携を取りながら、できる限りの支援を続けていきたいと思います。

仙石線鹿妻（かづま）～矢本（やもと）間
画像中央の車は津波で流された車